10 月号　№5
発行　北区立たばた福祉作業所

たばた

百　花　繚　乱

今月の花　**コスモス**　花言葉　**「乙女の真心」「調和」**

10 月号

≪沈思黙考≫

柳　緑　花　紅（りゅう　りょく　か　こう）

STAY・HOME・GO TO・WITH・ハーネスの代わりにマスクなどと犬の躾のような日常が続いている。(天声人語風に)3 月から勤務状況も大きく変わり、7 か月がたった。

午前５時２０分「トントントン」と階段を下りる。玄関の鍵を「ガチャリ」と解き、戸を開ける。傍らにいる妻が「気を付けてね・行ってらっしゃい」と見送る。早朝だと云うのに残暑厳しい熱気を帯びた空気がまとわり、出勤の途に就く。路地を曲がった所で、マスクを着け、スマホの NHK ラジオ第一放送とコードレスイヤホンのスイッチを押す。大通りに出ると「トンティンティントンティンティントンティンティン」と「詩人と私」のピアノの調べが流れ始める、フランクミルズが朝の挨拶をしてくれる。そして男のアナウンサーが「８月 11 日・今日は何の日」・「1936 年、昭和 8 年の今日。ベルリンオリンピックの女子２００ｍ平泳で、日本の前畑秀子が優勝・金メダルに輝きました」「…」「…」いくつかの「今日は何の日」が紹介され、女性アナウンサーが「2014 年平成６年の今日。山の日が制定された。今年は東京オリンピックの閉会式の予定だったので、昨日の８月 10 日に変更されました」と原稿を読み上げた。ふと目を上げると太陽の陽が人気の少ない駅舎を染めている。朝に似合う曲はフランクミルズが良いなどと思いに惹かれていると「NHK からのお知らせです。ただ今、上野の森の東京藝術大学、大学美術館本館展示室で、『特別展・あるがままのアート-人知れず表現し続ける者たち-』を開催中。既存の美術や流行、教育、障害の有無などに左右されず、ただひたすらに自由に独自の世界を創造し続けるアーテストたちの特別展……」が紹介される。「ウン・ナンダ・なんだ・何だ」と耳をそばだてた。アールブリュットなどの知っ

ている単語が飛び出し、一気に面白ずく・興味津々・好奇心旺盛・求知心バクバク・惹かれ引かれて、電車に乗るや否やスマホで調べる。作業所に着きさらにPCで調べる。会期は9月6日までとある。時間を待って慌ててチケットを予約した。

その日が来て観覧をする。視線を巡らすと「ドヒャー」「ナンジャコリャ」松田優作バリの驚愕の感嘆詞しか出てこない。異形の才を放散した作品群はどれも半端じゃない主張を告げ、「〜〜だから」などと媚(コ)びることは絶対にせず、容認も許容も寛容も拒否し、ただひたすらに新たなる美観を発し、心根を鷲掴(ワシヅカミ)みにして、存在している。平たく言えば「he-〜この作品は障害者が作ったの、すごいね！」などと言う、所謂(イワユル)、優しさの対象や感動の材料にされることを頑(カタク)なに拒んでいる。なぜなら、あくまでも真摯であり、作品は自己の主張の「ツール」否「代わり」否「矜持(キョウジ)」であるため、作品のバックにあるのは「障害者の」ではなく、「その人の生き様の」なのである。であるからして透明で高貴な輝きを放している。その場にいて、至近距離から又は少し遠くに下がって見ていると、微小と極細・繊細と大胆・質感と重量感・物量と大きさなどが調和・不釣り合い・醜美(シュウビ)・巧拙(コウセツ)などを綯い交ぜ(ナイマゼ)・度外視・多様性を用いて作品を表している。全く以って既存のスタンダードに当てはめずにある。五感を通じて感じ得るものは、ただひたすらどこまでも「誠実」である。作者には自分より大切なモノがあり、大切なモノをこの上なく大事にしている。大事にしている答えが、「誠実」である。異形の才能が「誠実」を作品にしている。「だから凄い」のだと思う。

すると妙な感覚がうごめいてきた。異形の才能を「あるがままのアート」などと表題することに違和感を覚えた。「あるがまま」とは何か無節操な無秩序なバイオレンスな響きがあり、ソーシャルスタンダードを無視しているかのような囚われを覚える(私だけかもしれないけれど)。これらの異形の才能の芸術を「アウトサイダーアート」と言っていた時期がある。直訳すれば「芸術の枠組みから外れた芸術」である。どうしてこのような呼び名にするのか、一般社会は芸術においても今なお「既存の芸術は遠近法・投影法・陰影法など用いたスタンダードな描写の絵画が優れている」と思っている。異形の表し方をすると既存(一般社会は)は何故か憐憫(レンビン)や先入観や偏見や蔑視(ベッシ)や差別などを使って排除をし「既存の芸術の枠組みには入れませんよ」とのだめ押しをする。「アウトサイダーアート」として。この流れをそのままに受けているのが「あるがままのアート」という表題なのだと思う。アールヌーボーも・アールデコも最初は異形であったはず。などとも思ってしまう。

「そんなにも表題を批判するならば、他に良い言葉があるのか」と問われて

もいたしかない。すると読んでいた本(アフガニスタンで砂漠の緑化に励んで、テロに合い亡くなった中村哲さんの書)の中に素敵な言葉を見つけた。「柳緑花紅」である。柳が緑のように花が赤いように、普遍のあるべき姿、手つかずの緑や花、自然こそが美しいという意味。転じて「ありのまま」「あるがまま」の美しさを意味し、「ありのまま」「あるがまま」の姿は人の神髄や悟りの境地を示しているとの事である。このように考えると「ありのまま」「あるがまま」には意志があり、人の神髄や悟りの深い意味の下にある。つまり、人が意志を以って創造する産物のアートには神髄や悟りの意味を成し、意志の原動力となっている。心根にある大切なモノを「誠実」に描写する、大切なモノを「ありのまま」「あるがまま」に「誠実」に描写する事、これが「柳緑花紅」なのである。

かつて肥沃(ヒヨク)だった土地が大旱魃(ダイカンバツ)で砂漠化し無毛の地となり、新天地を求めての争いごとが起き、紛争・内乱状態になったアフガニスタン。紛争・内乱の解決の策として砂漠に水路を設け森を作り、田畑の耕作地を作った。人々は争いをやめて元の地に帰り、豊かな農村と安穏な暮らしを取り戻した。その中村さんの言葉が「柳緑花紅」である。そー同じように、憐憫(レンビン)や先入観や偏見や蔑視(ベッシ)や排除や差別などの生きづらさと対峙(タイジ)をしながらも、「アート」を通して自我（アイデンティー）を表明し、折り込み広告紙や枯葉や白紙や粘土など多様な材を使い、無毛なキャンバスなどに「誠実」な作品を表している。今回の展覧会は「あるがままのアート」ではなく、私を喜ばせ、興奮させ、にっこりさせ、ほっこりさせた作品群は、やはり豊穣のニュアンスがある「柳緑花紅」の表題がしっくりくるのである。

前号に引き続いて、長文になりスミマセン。

北区立たばた福祉作業所　所長　中野雅義

☆彡　今月のテーマ１　≪『匠』≫

厳しい残暑を超え、日増しに秋の深まる気配を感じます。
日頃のコロナ感染予防の取り組みや自粛に、ご協力を継続して頂き感謝申し上げます。
今回は現在のたばた福祉作業所の様々な『匠』をテーマにしました。

作業

まず、作業の『匠』を紹介します。
今回、紹介する利用者さんは、たばた歴 30 年以上の大ベテランです。

〈作業の工夫〉

「コツは特にありません。スピードとテンポを気にします。作業手順をとても大事にしています。」

「若い時は、支援員に作業の手順を教えて貰っていました。昔は、キャップ入れが難しく、落としてとしてしまう事がありました。支援員から、手袋を勧められて上手になりました。現在は自分で　材料の位置を考えて決めた方が出際よくできます。長年の経験で学びました。」

〈心持ちの工夫〉

「たばた歴は 30 年以上になります。その中で、挫折しそうな時もありました。親が保護者会の会長になり親に心配をかけまいと、『頑張らなきゃ』と思いでやってきました。」

「自分のモットーは、30 年間『キレイ・丁寧』です。今でも、練習して上手くなれる事は楽しいです。」

〈「との事です」〉…編集委員より

梱包のコツや仕事への想いがあり、とても正確で見事な梱包ができあがるのだと思います。
作業の『匠』が 30 年以上に渡り『キレイ・丁寧』に仕事を頑張っているお陰で、地域の取引先との信頼を長く継続できているのです。

給食

次は“たばた”絶品給食の『匠』として、管理栄養士と調理師を紹介します。
毎日の楽しい献立や、美味しい給食について聞きました。

＜管理栄養士　海老原＞

献立を立てる上で気をつけている事は、“楽しみになる『献立』”です。色やイラストを用いて、皆さんが分かり易くなる様に工夫しています。
旬の食材を取り入れる事で季節を楽しんでもらう事はもちろん、献立を見て「明日のメニューは〇〇だから行きたい」「午後のお仕事頑張りたい」モチベーションに繋がる様に心掛けています。常に皆さんの表情や会話を大事にしています。利用者さんから、「〇〇って食べ物知ってる？我が家では、〇〇入れるんだよ～」などと言われると、新しい発想を頂けてワクワクします。
「通常メニュー」「誕生日メニュー」「ご当地メニュー」「セレクトメニュー」「イベントメニュー」など、皆さんのリクエストに応えて工夫する時間が、何よりも至福です。たぶん寝る時間以外は、料理本やネットでレシピを調べています（笑）

＜調理担当　山田＞

皆さんの満足している顔を見る為に、毎日給食を作っています。
給食は午前中の 2 時間半で約 20 人前・5 品目を完成させなければいけません。その為には、段取りが大切になってきます。明日の段取りのシミュレーションをして道具の位置、食器の種類・カトラリーなどを前日から準備します。まな板を手順良く使う事も、大事な作業です。生野菜から切り、炒める時や茹でる時などは食材を美味しくなる様に時間配分し食感を大事にし、飾り包丁を入れて調理しています。
段取りを失敗すると、味付けが雑になります。美味しい味付けと美しい盛り付けの為には、心に余裕を持つ事を大切にしています。今年は、コロナ禍の中、免疫力を上げる食品を取入れてます。納豆、キムチ、ヨーグルト、を積極的に取り入れて、コロナに負けない調理を工夫しています。
皆さんが美味しいと言ってくれた事を忘れない様に、自作ノートを作っています。毎日の仕事の中で、失敗もあります。すぐに対策を考え記録します。
楽しみにしている給食、完食してくださると一気に疲れを忘れられます。

☆彡　今月のたばた　　たまった通信

≪「9 月 1 日防災の日」の防災訓練≫

① 避難訓練

大地震が発生。
第一次避難場所、滝野川小学校に避難。
移動
第二次避難場所、滝野川公園へ避難。

②帰宅困難訓練

帰宅困難時に備えて、寝袋体験をしました。

③炊き出し訓練

ガスコンロで湯沸し
≪メニュー≫
カップラーメン、サトウのご飯、焼き鳥缶詰、えいようかん、インスタント味噌汁

☆彡　ベターベタートピックスは秋を紹介

①芸術の秋…「特別展あるがままアート」

②食欲の秋…「工房ヴイ　こだわり特製アップルパイ」

①≪あるがままのアート-人知れず表現し続ける者たち-≫

東京藝術大学美術館

既存の美術や流行、教育、障害の有無などに左右されず、ただひたすら自由に独自の世界を創造し続けるアーティストたちの特別展「あるがままのアート -人知れず表現し続ける者たち-」を観覧してきました。数点、紹介します。

切り絵

10 歳ころから自ら切り絵を始めた作者。初めは、動物の輪郭を切っただけの「切り抜き絵」だったものを、母が「ステキな切り絵と」と褒めたらどんどん細かく描写する様になった。命煌めく作品になった。

折り葉

毎年、初秋の頃、落ち始めたクヌギの葉を素材に作り出す。生き生きとした動物のオブジェ、中学生の頃クヌギの木で遊んでいたときに折り始めた。

工芸

幼少時からものづくりに興味を持ち、2000 年より本格的に陶芸活動を始めた。表面を覆う無数の棘は、独特な世界を作り出す。作品はフランス、イタリア、アメリカなどの展覧会にも出品され、現在も独創的な作風で世界から注目されている。

②≪工房ヴイ　“こだわり特製アップルパイ”の紹介です。≫

『工房ヴイ』とは』就労移行・就労継続Ｂ型事業所です。

スワンベーカリーより依頼されたパン製造や、すべて手作りの焼菓子・ケーキを製造しています。

“こだわり特製アップルパイ”

１０年以上、引き継がれている秘伝レシピ♪。シナモンが効いたゴロゴロ林檎がたっぷり、ずっしり重たく、果肉の感触を残した甘酸っぱいアップルパイ。一度食べたら忘れられない、美味しいアップルパイ。（要予約）🍎

工房ヴイへのアクセス

JR 埼京線十条駅より　徒歩 5 分
〒114-0034
東京都北区上十条 2-1-12
03-3906-7767